

福島 将恭

福島です。2/14～2/17（移動日含めると2/13～2/18）と北海道 DWAT として能登半島にあります「志賀町（しかまち）」の志賀町文化ホールと志賀町地域交流センターの2か所に伺いました。

第3クルールのメンバーは、北海道介護支援専門員協会の方と障害福祉施設の職員の方、計3名で行動していました。金沢駅近くに宿泊し、車で約1時間かけ移動となりました。

この町は、能登半島の概ね中間にあり、人口は約18,000人の町です。避難所周辺の地震の被害は地盤沈下や道路の亀裂、家屋の歪み、瓦屋根の損壊などが目視できました。比較的、被害の少なかったように見えますが、家の中は片付けが大変という話もあったので、実際の被害は不明です。

文化ホールには社協が入っており、隣には災害ボランティアセンターがあり、毎日45名のボランティアさんが来ていました（今回、災害ボラセンとのやり取りはほぼ無かったです）

文化ホールの避難者は45名ほどです。日中は自宅の片付け等で半数以上の方が不在でした。残っている方は高齢の方が多く、要配慮者は10名に満たない状況です。一般避難所ですが、介護認定を受けデイサービスを利用されている方が3名前後いました。地域交流センターは約20名で、文化ホールの避難者と構成は同様です。

避難所の運営は愛知県職員が1週間ごとに交代で入っており、文化ホールの福祉相談窓口の対応やニーズ調査は静岡 DWAT と北海道 DWAT が担当し、地域交流センターはメインがトヨタのボランティアさんが行い、サブ的に静岡、北海道が関わっていました。

地震発生から避難所が開設され始めたのが1/5頃で少しずつ避難所が増えていき、2/17現在は人数の少ない避難所は少しずつ閉鎖し集約されてきているフェーズかと思いません。

我々がおこなったことは、福祉的視点からのアセスメントと避難所が閉鎖になった場合の方向性の確認でした。

避難者の心境が測りかねることもあり、なかなか踏み込んだことを伺う難しさや、自宅の片付けが行えても余震が怖くて戻れないという方もいました。

自治体としては、避難所での生活に馴染んでしまい、避難所が居心地の良いものになることを懸念していました。実際に、そのように感じる方も数名いました。

伺った時に、前のクルールの方や静岡 DWAT の方からは DWAT の介入も2月末を予定しており、以降の支援は地元の民生委員等に委ねられないかという話が出ていました。

自分がある時には、具体的な方向性まで進んでいなかったです。

毎日、夕方に志賀町役場に伺いミーティングがありました。DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）が中心になり、DMAT、JMAT、JRAT、DCAT の方々と一緒に避難所や在宅者の支援の活動報告など行っていました。概ね他の都道府県の方々ですが、地元の保健師もこの会議に参加し町と情報共有ができていたかと思います。

初日は、緊張し状況を把握することで精いっぱい、2日目に少しなれ、3日目に見えてくる所が増え、4日目に慣れてきた所で活動終了という印象でした。

今回の活動で感じたことですが

①情報の重要性

限られた情報の中で、まず、今回はどこに何時に行けばよいかという基本的な部分から分からないことだらけで、たまたま第2クールに知っている方がいたので細かな情報をいただくことができました。専門職のつながり、ネットワークが活かされて良かったとつくづく思いました。

分からないことはグイグイ情報収集することが重要だと思います。

②コミュニケーション

避難者の状況を伺うほかに、地元の職員や他都道府県からも多くの支援者が入ってきています。

手探りで、どこまで踏み込んでOKかけっこう気を遣っていたと感じました。

③ネットワーク

今後も万が一、災害が起きた場合に備えるためにも北海道の登録者同士の繋がりには連携するうえで重要と感じました。

研修会等の機会があれば交流することも大切なことと感じました。

④避難所でのQOLはあまり高めずADLを維持することは重要

前段にも記載しましたが、避難所があまり居心地が良くなることは好ましくないようです。あれして欲しい、これして欲しいなどデマンドに対応していると居心地が高まり危険と思いました。仕事柄、QOLを高めることを意識してしまうところですが、自立支援を支えるスタンスで接していく方が良いのかと思いました。

次の生活の場所が見つからないので行き先もどう考えていくかが課題ですが、今回の支援の期間では難しく感じました。避難所の生活が中心になると寝ていることが多くなり不活発状態になります。JRATなどのリハチームと連携し運動の取り組みを進めることが必須と思いました。

余談ですが、多くの支援者が来ていて挨拶は頻回にありました。名刺交換もかなり多い

ので、名刺は多く用意しておいた方が良いでしょう。

今回は、交通費と宿泊費は一旦立て替え、後日、北海道社会福祉士会に旅費等を報告することで戻ってくっようです。

概要をまとまりなく長々と書き込みましたが、何かあればわかる範囲でお答えいたしますので宜しくお願い致します。